

進捗報告書（資金分配団体）

事業名:	アディクション等を対象とした緊急支援事業
資金分配団体:	プラスソーシャルインベストメント株式会社
実行団体数:	5団体
実施時期:	2021年4月～2022年3月
事業対象地域:	近畿・四国エリア
事業対象者:	アルコール・ギャンブル・薬物等のアディクション（依存症）及び精神などに障がいのある方

Version 1.0

日付：2021年10月31日

I. 事業概要

事業概要
<p>・アディクション（依存症）や精神障がい者等、困難を抱えている人々を雇用・支援している組織は、コロナにおいて売上・仕事の減少などの影響を強く受けており、今後さらに働く環境や待遇が悪化する可能性が高い。しかしながら、働く人の特性や福祉制度等の要因によって、業態や働く環境の転換を図ることは容易ではない。ただ現場にはコロナでの気付きから、浮き彫りになった課題を乗り越え、これまでの福祉的就労からの転換を図るための、分散型・高付加価値型等の新しい働き方、働く場の創出などへの意欲をもつ団体も少なくない。本事業では意欲ある組織を対象にモデル事業を募集・支援し、困難を抱える方々の早急な状況改善に寄与する。</p>

II. 進捗報告の概要

総括
<p>・事業開始から5ヶ月が経過した中であるが、実行団体5団体のうち、計画通りの進捗の団体が3、懸念事項ありが2という状況。</p> <p>・計画通りの3団体については、小さな課題は見受けられるものの、各地域の中で着実に事業を進めており、残り期間の中で当初想定通りの成果達成が見込める状況と考えている。</p> <p>・懸念事項の2団体については団体自身の問題というよりは、コロナによる建築資材の高騰や納期の目処がたたないというものである。こちらについては調達先と綿密にコミュニケーションを取りながら状況によっては事業計画変更も視野に協議を続ける予定である。</p>

III. 活動実績

資金支援

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
実行団体が、コロナ禍における現在および将来にわたる支援対象者の緊急的課題・長期的な課題を的確に把握し、その課題に対する解決法および連携パートナーが明確になっている	<p>・実行団体5団体すべて達成した。</p> <p>・「課題点の可視化」「解決方法の提示」「連携パートナーのリスト」を到達状況の目安の指標としており、日々のモニタリング等で全団体が明確になっていることを確認している</p>
上記、課題と解決策が事業担当者だけでなく、組織や連携パートナー含めて全体で共有化されている	<p>・実行団体5団体すべて達成見込みである</p> <p>・多様なステークホルダーが事業構築作業に参画し、そのプロセスで創造的な議論が起こり、またプロセスを共有することでモデル構築に向けた意識共有ができています。ただし、多様な方を巻き込んだ議論については、本事業の対象者の性質上、否定的な住民などもおられることもあり、今後も留意して進めたいと考えている</p>
実行団体において、分散型／高付加価値型のあらたな働く場や地域とのつながりの場のモデルが完成し、次年度以降の事業計画、収支計画、運営体制、資金調達の目処ができています	<p>・事業の進捗の差はあるが、実行団体5団体すべてが達成する見込みである。</p> <p>・全団体が休眠預金事業終了後も本事業を継続実施する予定である。当初想定では3団体は独自財源での実施、2団体は財源確保については他助成金などの活用や融資と見込んでおり、その点については引き続き、事業計画・収支計画などの伴走支援をしながら見極めていきたいと考えている</p>

実行団体名	進捗状況	概要
一般社団法人 Shake Hands	ほぼ計画通り	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に問題なく進んでいる。新規実習生等も着々と入られている。 ・修繕の部分で、一ヶ月程度の遅れがあるが、原因は和歌山市内で起きた断水が要因となっている。 ・A型受け入れは実施中。12月→1月へスケジュール変更。 ・重度受け入れは、修繕完了しなければできない。早ければ12月半ばでも可能。
特定非営利活動法人三重ダルク	計画通り	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物支援の詳細、すり合わせ。本事業内で試験的实施を行うことで進めている。 ・施設でイベントの実施や、ダルクについて研究する会、それに合わせた宿泊プログラムの提供を実施。オープニングイベントをし施設コンセプト共有の場のアイデアもあり。 ・地元社協と、買い物支援・移動支援について協議中。社協に役割は、広報支援の位置付け、事業が継続できるようなバックアップ、相談に乗って一緒に考えていく立場。三重ダルクと住民の方と繋ぐ役割を担う。
医療法人 誓生会	ほぼ計画通り	<ul style="list-style-type: none"> ・設備関係の進捗は多少な遅れがあるものの、順調に進捗している。 ・リワークプログラムについては、ブレで5日間のリワークプログラムを実施している。 ・一般企業へのアプローチ、愛媛銀行側支援を想定。通常枠で採用か、障がい者枠で採用かは検討中。銀行の取引先の中で採用を検討。エリア的に紙産業、ものづくり企業、福祉関係の事務職等からご紹介（各企業の総務等と連携）。
株式会社BASYO	遅延あり	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者のミーティングや用地の取得、行政への申請、研修等は順調に完了した。手続き関係は終了し、土地取得手続きもほぼ完了したため、今後は施設整備や販売計画等について着手している状況。 ・一方でコロナ感染症による物流の停滞や人手不足により、資材が不足・高騰していることもあり、砂栽培設備の設置や工期にやや影響がでる可能性もあり。12月から施工開始、1月末からは障がいのある方とともに作物の生産開始予定。
社会福祉法人南山城学園	計画修正	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症による緊急事態宣言が、当初予定より延長したことにより、プロジェクト会議やワーキングの開催が、当初予定通り進められていないこともあるが、若手職員と企業関係者も入りながらのミーティング開催そのものもよい成果が出始めている印象。現在は動体センサー付きの火災報知器の需要があることがわかり、その生産環境の整備を準備中。 ・一方、こちらも全世界的な半導体不足が進行しており、協働型ロボットの設置に影響がでると予想されている。ロボットの設置や稼働は1月に入る可能性が高い。

非資金的支援（資金分配団体の伴走支援活動）

活動	進捗状況	概要
①実行団体の事業提案およびブラッシュアップに関する支援 ②実行団体のもつ潜在的な強みを引き出す経営支援	計画通り	<ul style="list-style-type: none"> ・採択終了後から定期的なミーティングを重ねる中で実行団体が提案した事業計画が更に質的に高いものとなるように伴走支援を行っている。特に事業担当者のみならず、経営層もミーティングに参画してもらうことを通じて、実行団体のもつ強みや資源も可視化させながら進めることを心がけている。
③ステークホルダーも含めた事業構築作業のための場づくり・マッチング支援 ④社会的インパクト測定や評価に関する研修と助言	計画通り	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における仕事創出がメインなテーマとなるため、近隣住民や行政、社会福祉協議会等、またはパートナー企業等との事業構築のためのミーティングが不可欠であり、重要視をしている。特に地域住民の中には依存症についての理解が深い人ばかりではないこともあり、コミュニケーションの難しさを実行団体が感じる場面にも遭遇しているものの、こういった場づくりやマッチングにおける伴走支援の役割も痛感をしているところである。一方でコロナ枠ということもあり期間が短いこともあり、インパクト測定に関する研修や助言については10月末時点では特に行っていない。
⑤毎月のモニタリングと成果達成に向けた情報および人的・物的資源の仲介	ほぼ計画通り	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体に関しては毎月オンラインまたは対面でのミーティングを継続しており、必要に応じて回数を増やして対応をしている。特に初期は活動拠点の確保やリノベーションの期間となっていたことから、場所の選定に至るところなどは時間をかけて一緒に協議をした。
⑥本事業終了後を見据えた独自財源の確保と事業計画立案支援	遅延あり	<ul style="list-style-type: none"> ・事業後半部分で行う伴走支援となっているため、現時点では深く協議はしていない。 ・事業継続を必須と考えているため、休眠預金事業でつくられた基盤を継続・発展させるための事業計画や財源をどう確保するか、今後の重点事項として取り組みたい。

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述	
<p>①申請された事業を通じて、地域で暮らすこと、働くことに困難を抱えている人たちが働く場や居場所を失わないモデルが創出されている状態を目指しており、こちらの目標はたやすくはないものの着実に達成に向かっていていると感じている。</p> <p>②今回支援したモデル事業の成果や課題が明確になり、地域で可視化することを通じて、既存の支援機関が業態転換を進めるモチベーションが高まっていることを目指しているが、コロナが更に長期化、深刻化をしている中で、関心はあるものの行動変容までもっていけるかは厳しい状況にあると考えている。事業完了後の姿が更に発信することを通じて目標達成の状況に近づけたい。</p> <p>・感染の収束が長期化・深刻化したとしても、セーフティーネットである福祉的支援が地域で崩壊しない体制や環境が構築されることを目指すという目標については、実行団体を通じて各地の行政・社会福祉協議会・支援団体との連携が深まっており、共通認識もできていることから環境構築ができていると考えている。</p>	

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	実行団体への助成に充当される費用	¥0	¥200,000,000	¥200,000,000	¥199,940,000	100%
	管理的経費	¥0	¥29,610,600	¥29,610,600	¥14,517,368	49%
プログラム・オフィサー関連経費		¥0	¥1,791,400	¥1,791,400	¥1,048,632	59%
合計		¥0	¥231,402,000	¥231,402,000	¥215,506,000	93%
補足説明						

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>・コロナが要因による資材高騰、納期の遅れ、資材不足がじわじわと事業進捗に影響を及ぼしている。こちらに関しては当初から想定できるものではなく、また今後どうなるという見込みもわかるものでもないため、今後さらに各団体の事業進捗を遅らせる可能性がある。</p> <p>・コロナ枠という緊急支援的な事業であるため、短期間での事業実施であることは承知しているが、こういった団体の責に帰すべき要因でないものについては、事業の成果に重きをおくためにも事業期間の延長などの対策を検討していただきたいと考えます。</p>

VII. その他

自由記述
・特にありません

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	無	
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	・実施している
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	・ JANPIAの窓口を利用
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	・ 一部未整備の規程類があるため現在作成中となっている
5. コンプライアンス委員会は定期的を開催されていますか。	はい	・ 取締役会において実施している